

数ある書籍の中でどれを選べばいい？  
その道の専門家が教える

# ビギナー担当者に 絶対オススメの 「実務解説本」 厳選10冊

インターネットの急速な普及で書籍の売上が減っていると伝えられています。しかし、専門分野の知識を深く学ぼうと思えば、書籍を読み込むのが一番手っ取り早い方法です。

とはいえ、いざ書店に行ってみると棚には数多くの専門書が並んでいて、どの書籍を購入すればいいのか迷ってしまいます。一見やさしく解説しているように見えても、実際に購入して読んでみるとチンプンカンプンといったこともあります。

そこでここでは、経理・税務・会計・社会保険・総務の各ジャンルで、「これはビギナー担当者にオススメ」という実務書を、それぞれの分野の専門家がご紹介しました。どの書籍もビギナー向けではあっても、切り口が斬新であったり、内容が深く参考になるものばかり。各ジャンルの最初の一步の入門書として、読んでみてはいかがでしょうか。

「経理部長が新人のために書いた 経理の仕事がわかる本」



近藤仁（著）  
日本実業出版社／1404円（税込）

「経理」の仕事は会社の規模や業種によって多種多様です。そんな様々な経理の仕事を知りやすくコンパクトにまとめたのが、今回ご紹介する「経理部長が新人のために書いた 経理の仕事がわかる本」です。

事がわかる本」です。経理の本といえは、税理士や会計士が税法や会計について解説した「専門書」が一般的ですが、本書は少し違います。著者の近藤仁さんは一部上場企業の元経理部長で、一貫して経理業務を担当してきた実務家です。そのため本書も経理業務の習得を目指した「入門書」となっていて、経費精算・給料計算等の日常業務から資金調達・予算立案等の高度な業務まで、経理の仕事幅広く紹介しています。

イラストも豊富で、訂正印の押し方や小切手の書き方等も図入りでわかりやすく解説されています。冒頭には、「会社組織」「関連法令」「経理業務のスケジュール」等の基本や、「宴会の場で業績のグチをいわない」といった経理担当者に求められるモラルも書かれています。

基礎から勉強したい新人経理ウーマンにおススメの一冊です。

（税理士 平井満広）

「稲盛和夫の実学 経営と会計」



稲盛和夫（著）  
日本経済新聞社／566円（税込）

著者の稲盛和夫さんは、京セラ・第二電電（KDDIの前身）と二つの1兆円企業を創業し、経営破たんしたJALを再建した「カリスマ経営者」です。経営者向けの著書が多いですが、本書は京セラの元経理部長がまとめた

「経理規程」がベースになっているので、経理担当者にも役立つ情報が満載となっています。

まず読んでほしいのが、「第二章 一対一の対応を良く」です。「モノが動いたら必ず伝票も一緒に動く」「買掛金を支払う際は、いつ買ったどの品物の代金なのか一対一で処理する」といった数字の「ごまかしを防ぐルールや考え方が解説されています。

また、「第五章 ダブルチェックに

よって会社と人を守る」も必見です。現金を管理する際は「お金を出し入れする人」と「入出金伝票を起票する人」を分ける等、社員に罪をつくらせないしくみづくりの具体例が紹介されています。

「正しい経理とはなにか」を知りたいビギナー経理の方には、きつと本書が参考になると思います。

（税理士 平井満広）